

丹生ダム建設所 発行 水資源開発局 2002・Vol.23  
発行：(財)水資源協会 監修：高時川治水対策推進委員会 水資源開発局 丹生ダム建設所

如くさゝ波  
光り合ふ

秋景

## 丹生ダムからのお知らせ

### 春の訪れ、ザゼンソウが咲いています

丹生ダム流域の中河内では、冬の間に雪で埋もれていたザゼンソウが姿をあらわし花を咲かせました。ザゼンソウの花が咲くということは春がやって来たということです。このように季節を花により感じられることはとても素晴らしいことですね。

皆さんも普段何気なく見ている風景の中に春の訪れを探してみてはいかがでしょうか。



ザゼンソウについて  
湿地に生えるサトイモ科の多年草。花の形が蓮磨(だるま)の座禪姿に似ていることから名前が付いたといわれる。

## EVENT

**余呉町** 5月3日(金)  
JRふれあいハイキング  
「奥びわ湖の歴史と自然を訪ねて」  
○内容/余呉湖-賤ヶ岳周辺の散策  
○問い合わせ先/余呉町地域振興課 ☎0749-86-3221

**余呉町** 5月6日(月)  
JRふれあいハイキング  
「新緑の妙理 禪の里を訪ねて」  
○場所/JR北陸線余呉駅-菅並(山椒摘み)-妙理の里-洞寿院(散策)  
一茶碗まつりの館-JR余呉駅  
○内容/山椒摘みツアー 参加費/450円  
○問い合わせ先/余呉町地域振興課 ☎0749-86-3221

**木之本町** 5月12日(日)  
「賤ヶ岳まつり」  
○問い合わせ先/木之本町観光協会 ☎0749-82-5909

**高月町** 5月3日(金)  
「第9回高時川こいのぼりマラソン」  
○場所/高時川周辺  
(阿弥陀橋ゲートボール場スタート・ゴール)  
○内容/500匹のこいのぼりが泳ぐ川岸を楽しく走る  
(3km・8kmコース)  
参加料/300円(小中学生無料)  
○問い合わせ先/高月町地域整備課 ☎0749-85-6406



**長浜市** 4月14日(日)~16日(火)  
「長浜曳山まつり」  
○場所/長浜八幡宮他  
○内容/日本三大山車祭のひとつ。絢爛豪華な「動く美術館」とも言われる曳山。その舞台上で5歳から12歳までの男の子が演じる「子ども歌舞伎」が一番の見所。  
○問い合わせ先/長浜市商工観光課 ☎0749-62-4111



**長浜市** 5月11日(土)・12日(日)  
「第10回びわ湖長浜 ツーデーマーチ」  
○場所/主会場 豊公園  
○内容/紺碧のびわ湖と緑に萌える伊吹山のもと、「歩こう!びわ湖の風を襟もとに」をテーマに湖北一帯を歩く。  
費用/大人1200円 中学生以下300円(コースによっては別途徴収)  
○問い合わせ先/スポーツ振興室 ☎0749-64-5151



**びわ町** 6月10日(月)~15日(土)  
「竹生島祭」  
○場所/竹生島  
○問い合わせ先/都久夫須麻(つくぶすま)神社 ☎0749-72-2073

## QUIZ

このコーナーでは、毎回、クイズに正解された皆さんの中から、抽選で10名様にプレゼントをお送りしています。

皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしています。  
【クイズ解答のあて先】  
クイズの解答は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、下記のあて先までハガキでお送りください。  
また「たかとき川」へのご意見、ご感想等がございましたら、あわせてご記入下さい。  
〒529-0522 滋賀県伊香郡余呉町坂口819  
水資源開発局 丹生ダム建設所 広報誌クイズ係  
\*クイズの締切は平成14年4月30日(火)付消印まで有効です。

【たかとき川・22号】のクイズの答え《なれ》  
前号のクイズに多数の御応募ありがとうございました。  
抽選の結果、下記の方々が当選されました。

クイズ当選者 (応募総数208枚)  
新井 垂子様 大沢 治子様 大林 茂様 尾崎 広子様  
木村 桂子様 杉野 祐夫様 高木 笑子様 高橋 安弘様  
樋口 智美様 堀井 好男様

お詫びと訂正  
第22号(2月発行)の記事の一部に誤りがあり、大変ご迷惑を掛け申し訳ございませんでした。ここにお詫びし訂正させていただきます。裏表紙「丹生ダムからのお知らせ」の中で、丹生ダム建設所の電話番号・ファックスナンバーが誤り、正しくは  
Tel. 0749-86-3800 Fax. 0749-86-3548です。

## 民話 シリーズ⑩ 千人橋

湖北町伊部の西、北国脇往還に「千人橋」と名付けられた橋がありました。昔、ここに橋を架ける時、工事がはかどらず、村人が困っているところへ、旅をする一人の僧侶が通りかかりました。気の毒に思った僧侶は、工事をしている川の方へ降りていき、いきなり大きな一枚岩を軽々と持ち上げ工事を手伝い始めました。怪力の僧侶が力を貸したため、工事はほどなく完成したとされています。  
この橋の名の由来は、架橋が難工事であり延べ千人の人力を要した事から「千人橋」、また、僧侶が仙人のような力を発揮した事から「仙人橋」とも言われていました。  
福井県の聖徳寺には、橋作りを力貸した僧侶の故事を記述した文書が現存しているそうです。「湖北町昔ばなし2より」

## 編集後記

「丹生」のように、そこに住んでいなければ読めない地名ってありますよね。また普段慣れ親しんでいる地名でも「その名前がいつの由来は」って考えると・・・? 今回の特集は「なぜこんな地名なんだろう?」という素朴な疑問を取り上げてみたのですが、いかがでしたか。  
「名は体を表す」と言いますが、調べてみると地名も例外ではありませんでした。地名をひも解くことにより、その土地の風土や先人達の暮らしを知る手がかりになるようです。  
地名って歴史の扉を開く「キーワード」なのかもしれませんね。  
俳句/春拾ふ 如くさゝ波 光り合ふ  
表紙撮影/高月町・奥村正利